

異次元金融緩和政策が残した異次元の負の遺産			
項目	2012年(A)	2022年(B)	B/A
政府債務残高(うち国債) 対GDP比	1131.5兆円(705.0兆円) 226.0%	1462.2兆円(1026.4兆円) 262.5%	1.29倍(1.4倍) 36.5%増
日銀資産 国債保有額と保有比	158.3兆円 113.6兆円・16.1%	732.0兆円(22年7月) 541.8兆円・52.7%	4.6倍 36.6%増
富裕層純金融資産	188兆円(2011年)	333兆円(2019年)	1.8倍(145兆円増)
国民負担率	39.8%	46.5%	6.7%増

日銀、財務省、J.P.X.、野村総合研究所の各HP、IMF「World Economic Outlook database」から作成。22年の政府債務はIMF予測、日銀の国債保有比は国债発行残高に対する国債保有比、富裕層は純金融資産1億円以上の保有世帯

異次元金融緩和

群馬大学名誉教授 山田博文さん①

アベノミクスの異次元金融緩和政策によって緊縮された負の遺産が日本経済と国民の肩に降りかかっているのは、むしろこれから近未来にならぬようです。その他の遺産についてデータ(表)で検証します。

政府債務の重圧

日銀が国債を大量に買入される量的緩和策は、国債を発行する政府サイドにとって、ほぼ無制限に国債を発行でき、国債発行残高は705兆円から1,026兆円へ1.4倍になりました。日本は主

がかけられ、物価は3年で100倍いうハイペーリングとなりました。

戦後の憲法下で、このようない般国民からの大取扱い政策で、この間、普通の国民が國債を発行でき、政府債務を解消する」とはなん

な府債務を解消する」とはなんとしても回避しなければなりません。異次元金融緩和政策

は、理論上最終的には国債費は、理論上最終的には国債発行残高1,026兆円のうちで巨万の資産を築いた大企業や富裕層に応能負担を求めるべく、どう選択肢が検討されるべきでした。

政赤字体質からの脱却が求められています。

第1の矢の結果

政府債務の重圧は、歳入面では消費税の増税圧力として作用し、消費税率は5%から10%へ引き上げられました。歳出面では社会保障関係費などの削減圧力となりて、国民生活を悪化させています。

歴史を振り返ると、GDPの2008・15年の政府債務の



第1の矢の結果

今、欧米は約40年ぶりのインフレ・物価高に襲われています。

歳入面では消費税の増税圧力として作用し、消費税率は5%から10%へ引き上げられました。歳出面では社会保障関係費などの削減圧力となりて、国民生活を悪化させています。

（Jの頂おわ）

退くも、進むも地獄

算出する黒田東彦日銀総裁=6月7日、参院財政金融委員会

水準は、日銀の直接引き受けます。各國中央銀行は政策金利を引き上げ、金融引き締めに切り替わり、物価高を抑え込むとする日銀の指し値

利格差は50%ほど拡大しています。何もしないでいた

オペの結果、すでに日本の金利格差はますます拡大し、世界の投資マネーは日本を捨てて高金利国へ逃げ、日本経済はさらに脆弱(せきじやく)化してしまいます。まだ進むも地獄、運んで地獄、これがアベノミクスの「第一の矢」を撃った異次元金融緩和政策の結果です。

しかも、異次元金融緩和政

策は、かつての「一億総中流社員」日本にとって変わる「格差社会」をもたらしました。日本の中堅企業の約3割が、預貯金などの金融資産を持つていません。他方で、世帯数ではわずか2・4倍にすぎない富裕層世帯(純資産を1・8倍以上)は、145兆円も増えました。「和をもって尊ぶこと」日本社会は破壊されました。

（Jの頂おわ）